

AICA

住まい空間を演出する



多機能建材

モイス
M O I S S

モイスNT内装材 施工マニュアル



1. モイスを施工する前に

注意事項 警告

- ①モイスは、天然素材を使用して、紙漉きと同じ“抄造法”で作られています。そのため、仕上げ面の風合いが若干異なる場合があります。製品性能には問題ございませんが、ご理解の上、ご使用をお願いします。(⇒P.2)
- ②モイスの施工は、下地・用途別の推奨方法に従い施工してください。(⇒p5～12) 標準施工と異なる場合、強度不足等によりモイスが外れ、ケガをするおそれがあります。
- ③モイスを切断する際には必ず保護メガネ・防じんマスクを使用し、手袋・長袖の作業着を着用し、皮膚が露出しないようにしてください。また適切な集じん装置を使用し、現場の作業環境を保守してください。作業後は、うがい及び手洗いを励行してください。粉じんが大量に体内へ入ると、呼吸器等へ悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ④モイスに割れ・ひび等が発見された場合、使用せず交換等の処置をお願いします。
- ⑤モイスの曲面加工については、“2 曲面施工について”を参照願います。(⇒P.16)
- ⑥モイスを使用した壁に手すり、エアコン、フック等負荷がかかるものを取り付ける場合は、必ず下地材を取り付けるか、柱の部分に取り付けるようにしてください。(⇒P.16)
下地材は、厚さ 12mm 以上の合板または、35×105mm 以上の受け材を推奨します。

お願い 注意

- ①製品の破損・機能低下の原因となるおそれがあります。搬入時には下記事項をお守りください。
製品は、屋内の平らな場所に床面からの湿気を防ぐように、パレットや 10cm 以上の角材などを使用してください。保管は高さ 1m 以内を限度としてください。
水濡れや汚れを防ぐため防水シート等で養生してください。
- ②荷降ろし、小運搬の際は、“保管および取り扱い上の注意点”を参照願います。(⇒P.4)
小分けの際は、角部の損傷を避けるためモイスを引きずること無く、持ち上げるように作業してください。
欠けおよび破損、ひっかき傷またはテカリ等の不具合の原因になります。
モイスの表面が汚れた場合は、“お手入れの仕方”に従ってメンテナンス処理をしてください。(⇒P.18)
- ③モイス表面の軽微な傷は、仕上り目に沿って研磨紙擦りすることにより、目立たなくすることができます。
研磨番手 #60～#150 の順に使い分けながら研磨紙擦りをしてください。
- ④梱包用の“捨て板”は、梱包資材(緩衝材)のため、使用しないでください。捨て板は四隅を赤く塗装するなど、製品と区別してあります。(⇒P.4)
- ⑤接着剤・両面テープ及び、プライマーは、モイス推奨品をご使用ください。(⇒P.5)
推奨品以外の接着剤・両面テープ等を使用すると、接着剤・両面テープ等に含まれる成分によって、モイス表面が汚れたり、シミになるおそれがあります。
- ⑥木製下地材は、必ず乾燥材(含水率 20%以下)を使用してください。
含水率の高い木材を使用した場合、その水分がモイス表面へ染み出し“シミ”になるおそれがあります。(⇒P.13)
- ⑦モイスを内装仕上げ材として使用する場合には、GL 工法での施工はしないでください。
GL ボンドの成分がモイス表面へ染み出してしまい、シミになるおそれがあります。
- ⑧不燃材料として使用する場合、面取り・切削加工箇所の板厚は 4mm 以上であることを確認してください。
- ⑨モイスは、多孔質素材で、吸水性に富んでいます。常時、水がかかり、頻りに水汚れ等が考えられる湿潤な場所(浴室内など)や油がかりするレンジ廻り等への使用は適しません。
- ⑩ねじで固定する場合は、モイス端部より 15mm 以上離れた位置にねじを打ち、固定してください。端部近くにねじを打つとモイスが破損するおそれがあります。

モイス仕上表面の見え方について

モイスは、天然素材を使用して、紙すきと同じ“抄造法”で作られています。そのため、仕上面の見え方が製品毎に異なります。事前にご了解の上、ご使用をお願いいたします。また、外光等の影響により、日焼けによる変退色が発生する場合があります。

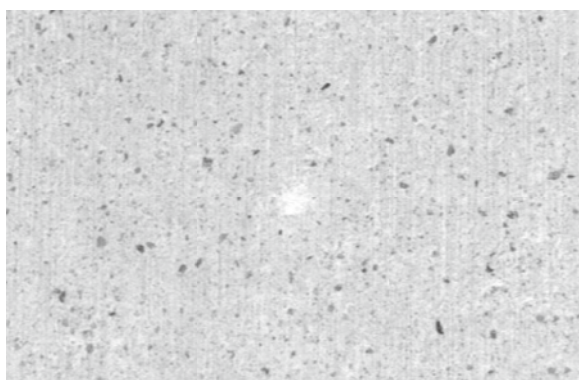
【主な仕上表面の見え方の例】

(1) 基材の色調の違い、バーミキュライト*の粒度・分布差によるもの



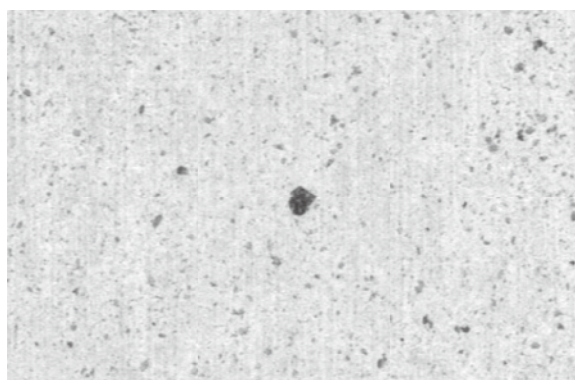
基材の色調は原材料の産地、地層等により上記の通り異なります。バーミキュライトは、天然鉱物なので、粒度や板内分布がバラつきます。

(2) 白点



原料の分布により上図のようにモイス表面に白い小さな点が出る場合があります。

(3) 黒点



バーミキュライト等の黒っぽい原料が上図のようにモイス表面に黒い小さな点を作る場合があります。

*バーミキュライトについては南アフリカの特産地産品を使用しています。
アスベストの混入については日本に於けるアスベスト含有に係わる法規制よりも厳しい管理基準をクリアしたものを採用しています。

2. 基本事項

1 モイスの特長

モイスNT内装材は、素材自体の持つ自然の力を利用した無垢な仕上げ材です。特に、湿度の調整機能に優れた特性を持ち、人と環境に優しい、新しい「調湿建材」です。

[1]特長

1. モイスNT内装材は「多機能けい酸カルシウム板」です。
2. 吸放湿性に優れています。「調湿建材登録・表示制度」適合商品
3. 化学物質(VOC)を吸着します。
4. 無接着剤工法を可能とし、スピード施工を実現します。
5. 曲面施工が可能です。木材のような加工が出来ます。
6. 寸法安定性に優れています。
7. 国土交通大臣認定の不燃材(NM-8578)です。
8. 土に還る環境に優しい建築素材です。

[2]用途

住宅の生活空間、病院、研究所等の消臭機能を要求する施設、美術・博物館の収蔵庫、倉庫といった収納空間等、幅広い用途にお使いいただけます。

2 適用範囲

使用できる場所	内壁(居間、トイレ、洗面所、キッチン家具、玄関、廊下など)
使用できない場所	外壁、浴室内、床、キッチンパネル など

3 商品構成について

[1]商品構成と物性値


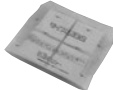
寸法(mm)	重量(kg)	
	厚さ 6mm	厚さ 9.5mm
910 × 1820	10.7	17.0
910 × 2420	14.3	22.6
910 × 2730	16.1	25.5

注) 重量については含水等を見込んだ参考の数値としています。

物性値			
許容差	(mm)	厚さ ±0.5 長さ、幅 +0, -2	JIS A 5430
かさ密度	(g/cm ³)	0.60以上0.90未満	JIS A 5430
曲げ強さ	(N/mm ²)	10.0以上	JIS A 5430
吸水による長さ変化率	(%)	0.15以下	JIS A 5430
熱伝導率	(W/m・K)	0.18以下	JIS A 5430
難燃性(不燃)	—	NM-8578 (5mm以上)	JIS A 5430
調湿性(吸湿性)	(g/m ²)	3時間後 15以上	JIS A 1470-1
		6時間後 20以上	
		12時間後 29以上	
透湿抵抗	(×10 ³ m ² sPa/ng)	1.76 (6mm厚実測値)	JIS A 1324

[2]副資材の種類

専用副資材

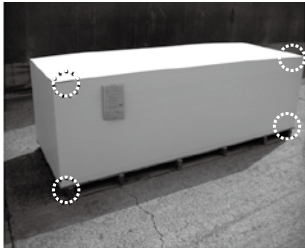
品名	品番	容量(ml)・サイズ(mm)等	梱包入数	備考
モイスNTパテ	NTA1	 330ml カートリッジ	1本	アクリル樹脂系補修用パテ材
モイス調湿袋	NTA5	 W600 × H500	10枚	現場端材を入れるモイス専用の袋 容量目安=モイス端材5~6kg/袋 ※過剰に詰め込むと袋が破れる恐れあり、注意のこと。 モイス以外は調湿袋に入れないでください。

・モイスNTパテは、隙間を埋める程度で、大きな傷や欠けの補修はできません。

[3] 標準荷姿

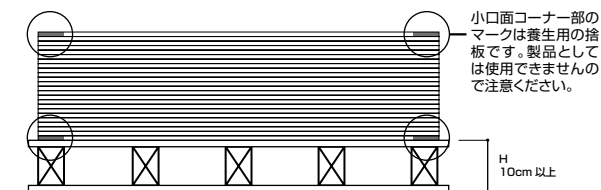
木製パレットに捨て板（汚れ防止用）を敷き、モイスを積み重ね最上面に捨て板を置いています。

なお、一梱包の重量を約 1.5トンを目安としています。



例えば、6mm厚の910×2420の梱包の枚数は110枚が積載目安となります。

標準搬入荷姿



[2] 小運搬について

荷降ろしの際は材料の角部を損傷することのない様に注意してください。板を引きずって作業すると下の板の表面に傷がついたり、テカリが起こる場合があります。持ち上げるようにハンドリングしてください。

また、小運搬時には、2名で前後の角部付近を持ち、材料を垂直に立てて運ぶようにしてください。



小運搬

4 保管及び取り扱い上の注意点

[1] 搬入受入・荷降ろしについて

指定材料が正しく納入されたかを確認してください。



搬入受入



荷揚げ



荷降ろし

[3] 保管について

商品の特性上、野積は厳禁です。屋内の平らな場所に、床面からの湿気を防ぐようパレットや 10cm 以上の角材などを使用してください。保管は高さ 1m 以内を限度としてください。

また、モイスは素材特性として吸水性があります。施工の前に雨水等で濡れ水分を含むと、重くなり施工性が著しく低下し、表面が汚れやすくなります。雨水等がかからぬように注意し、養生してください。

[4] 取り扱い上の注意事項

モイスの施工に際しては、仕上げ材としての取り扱いを意識し、表面の傷や汚れに十分注意し、必要に応じて適宜養生を行ってください。モイス表面が汚れた場合は「お手入れのしかた」(p.18)の要領に従って処理してください。

*注意事項

室内で切断、面取り、現場加工等を行う場合には防じんマスク、防護メガネ等の保護具を使用し、集じん機設備による作業に心がけてください。

3. 施工

1 施工の分類と施工図

下地種類1	木製下地			軽量鉄骨・鋼製(LGS)下地		ボード下地(接着工法)			
	壁	天井		壁	天井	壁		天井	
下地種類2	-	-	-	-	-	せっこうボード	合板、ケイカル板等	せっこうボード	合板、ケイカル板等
張り方	直張り	直張り	直張り	直張り	直張り	二枚張り		二枚張り	
モイス NT 厚さ	9.5mm 6mm	6mm	6mm	9.5mm	6mm	6mm		6mm	
留め付け方法	ピンネイル留め または スーパーフィニッシュ留め	接着剤張りまたは 両面テープ + スーパーフィニッシュ留め	ねじ留め	ねじ留め	ねじ留め	両面テープ + 接着剤張り		両面テープ + 接着剤張り	
専用プライマー塗布面	モイス裏面側	-			-		不要		○
	下地(種類2)側	-			-		不要	○	不要
留意点	*2/*3	*3	*4	*4	*4	*1/*5		*1/*5	
参照図No(掲載ページ)	図1(P.6)	図2(P.6)	図2(P.6)	図3(P.7)	図4(P.7)	図5(P.8)		図6(P.8)	

- *1 下地はせっこうボード(推奨 9.5 mm以上) もしくは、ラワン合板(推奨 5.5 mm以上)、ケイカル板(推奨 6.0 mm以上・比重 0.8 以上)等のボードとしてください。下地の選定と構造の作成は、建築基準法や火災予防条例などの法令、法規に適合するように行ってください。また、下地には面段差がなく平面であることを確認してください。壁のボード下地として合板を使用する場合にはスーパーフィニッシュによる留め付けが可能です。
 - *2 留め付けは、くぎ頭の目立ちにくいピンネイル及びスーパーフィニッシュを推奨します。但し、6 mmの場合はスーパーフィニッシュを推奨します。
 - *3 スーパーフィニッシュをご使用の場合は、くぎ頭が白色タイプのを推奨します。(留め付け跡が目立ちにくくなります)
 - *4 ねじ留めの場合は、頭の目立ちにくい専用ねじ(エコファスナーライト)を推奨します。一般ねじを選定する場合にはねじ頭部の色付け等仕上げ処理が必要となります。
 - *5 接着剤プライマー等を併用する場合に、気温が5℃以上でご使用ください。
- ※施工図は在来木軸工法に準じ作成しています。枠組壁工法(2×4)についても同様の納まり、施工となります。

モイスNT内装材留め付け資材(現場手配)

部品名	仕様	形状	材質	推奨メーカー	適用範囲
ピンネイル	長さ: 25, 30, 35 径: 0.6φ		鉄またはステンレス	マックス(株) (株)マキタ	木製下地(壁)
スーパーフィニッシュ	長さ: 25, 30, 35 径: 1.05 頭径: 1.4x1.3		鉄またはステンレス	マックス(株) (株)マキタ	木製下地(壁・天井)
※エコファスナーライト(BH0324KTW)	長さ: 24 径: 3.8 頭径: 7.0		メッキ(タクロライド)	(株)ムロコーポレーション	木製下地、鋼製鉄骨下地の壁・天井
皿木ねじ	長さ: 25以上 径: 3.0以上		メッキまたはステンレス	-	木製下地(壁・天井)
ジャックポイントフレキねじ(FSJ25, 30, 35) *鋼製下地の板厚み11.5mmの場合	長さ: 25, 30, 35		鉄	(株)ヤマヒロ	鋼製下地(壁・天井)

※エコファスナーライト:ねじ頭浮きを防止する特殊形状(モイス専用ねじ)

モイスNT内装材張付施工 専用副資材<アイカ工業製>

品名	品番	容量(ml)・サイズ(mm)等	梱包入数	備考
専用接着剤 アイカエコエコボード「カベパネル用」	GS-330	 333ml カートリッジ	20本/ケース	変性シリコン系接着剤 JAJA F☆☆☆☆ JAJA 4VOC基準適合 オールプラスチック容器で分別廃棄が不要です。 標準施工量: せっこうボード、合板下地の場合 2枚(3×8サイズ)/本
専用仮留めテープ(強粘着*1両面テープ) *1 粘着力が強く、けい酸カルシウム板の施工に最適です。	ZA-38	 40巻/ケース	40巻/ケース	アクリル樹脂系 両面テープ 1mm厚x20mm巾x15m/巻 標準施工量: せっこうボード、合板下地の場合 2枚(3×8サイズ)/巻
専用プライマー*2 *2:天井面へのご使用やモイス自体へ荷重負荷がかかる場合、及び、吹き抜け等で高さ3mを超える場合の壁面へのご使用の場合は、下地面(合板・ケイカル板等)、かつ、モイス裏面側に専用プライマーを塗布してください。	JW-900N(溶剤系)	 1Kg 缶	2缶/ケース	ポリウレタン樹脂系 JAJA F☆☆☆☆ JAJA 4VOC基準適合 標準施工量: ・せっこうボード下地の場合(モイス裏面側のみ塗布): 6~8枚(3×8サイズ)/1kg缶 ・合板、ケイカル板下地等の場合(下地面+モイス裏面側塗布): 3~4枚(3×8サイズ)/1kg缶
※モイス裏面側にプライマー塗布した場合、「調湿建材」対象外となります。	RA-900(水系)	 2Kg ポリ容器	1ヶ/ケース	アクリル樹脂系 JAJA F☆☆☆☆ JAJA 4VOC基準適合 標準施工量: ・せっこうボード下地の場合(モイス裏面側のみ塗布): 18~20枚(3×8サイズ)/2kgポリ容器 ・合板、ケイカル板下地等の場合(下地面+モイス裏面側塗布): 9~10枚(3×8サイズ)/2kgポリ容器 養生期間:冬 期=24時間以上 春秋 期=24時間以上 夏 期=6時間以上

※ご注意
指定以外の接着剤、両面テープ等のご使用は厳禁です。
モイスNT表面への接着剤等の染み出しの恐れがあります。
(万一、指定以外の接着剤・両面テープ等のご使用で不具合が発生した場合は、責を負いかねます。)

内装材施工図 (参考・JASS26 内装工事による)

(単位: mm)

①木製下地

図1 壁・直張り

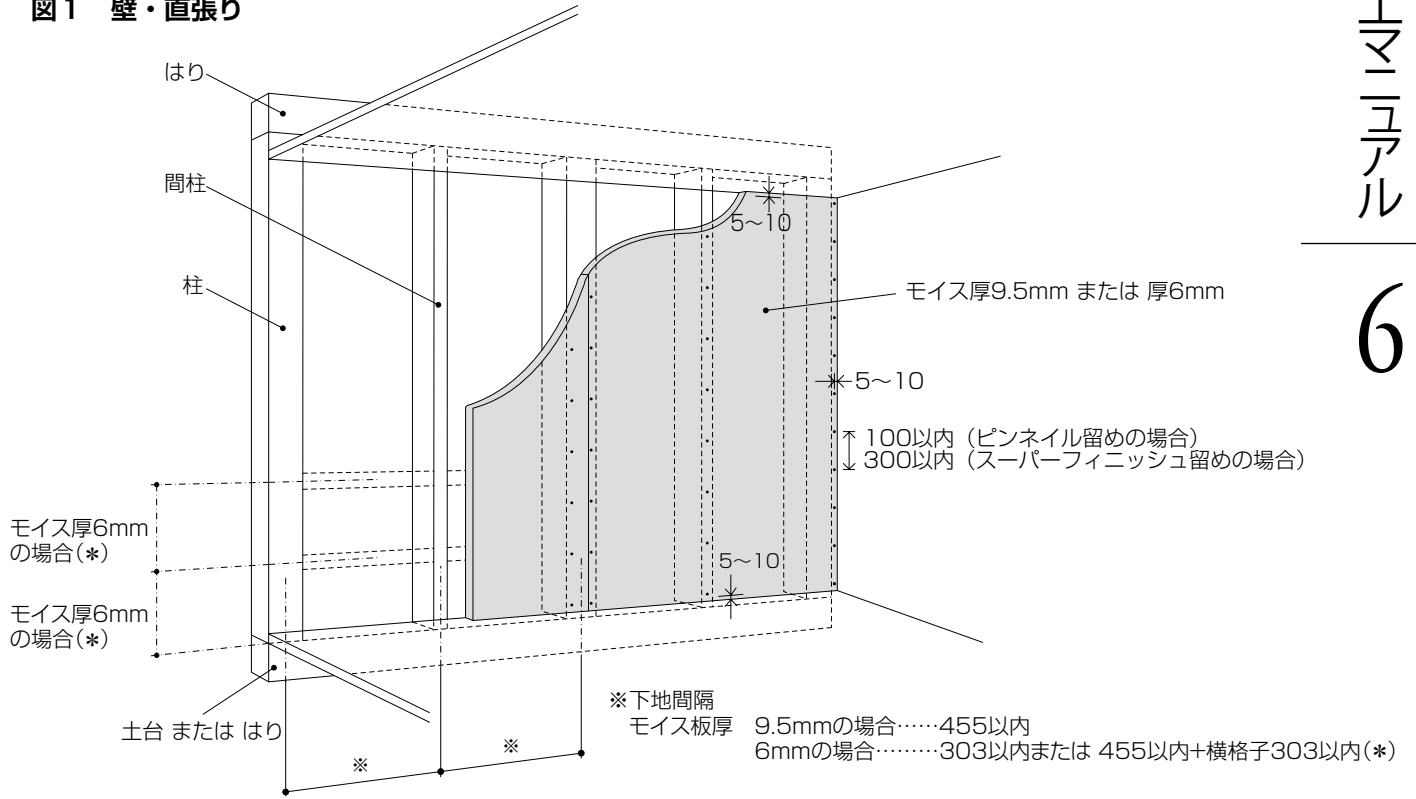
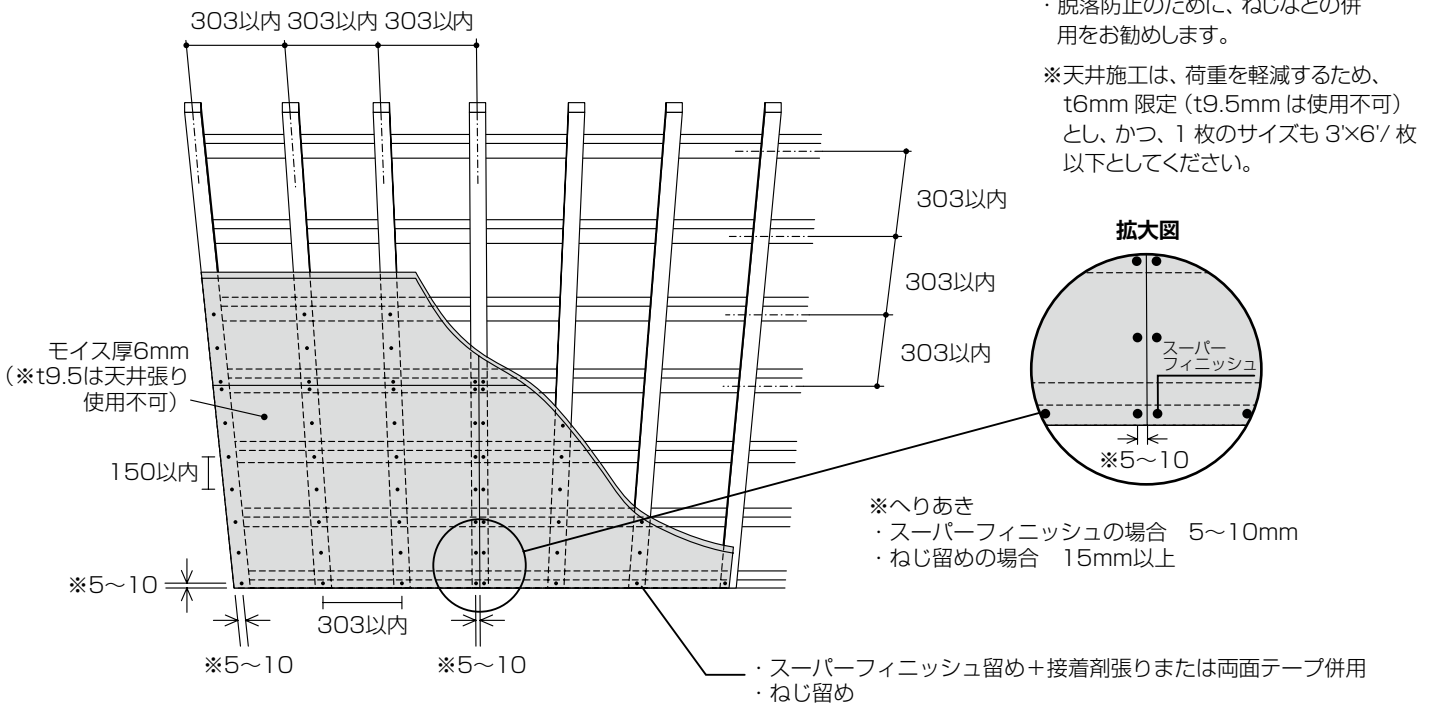


図2 天井・直張り



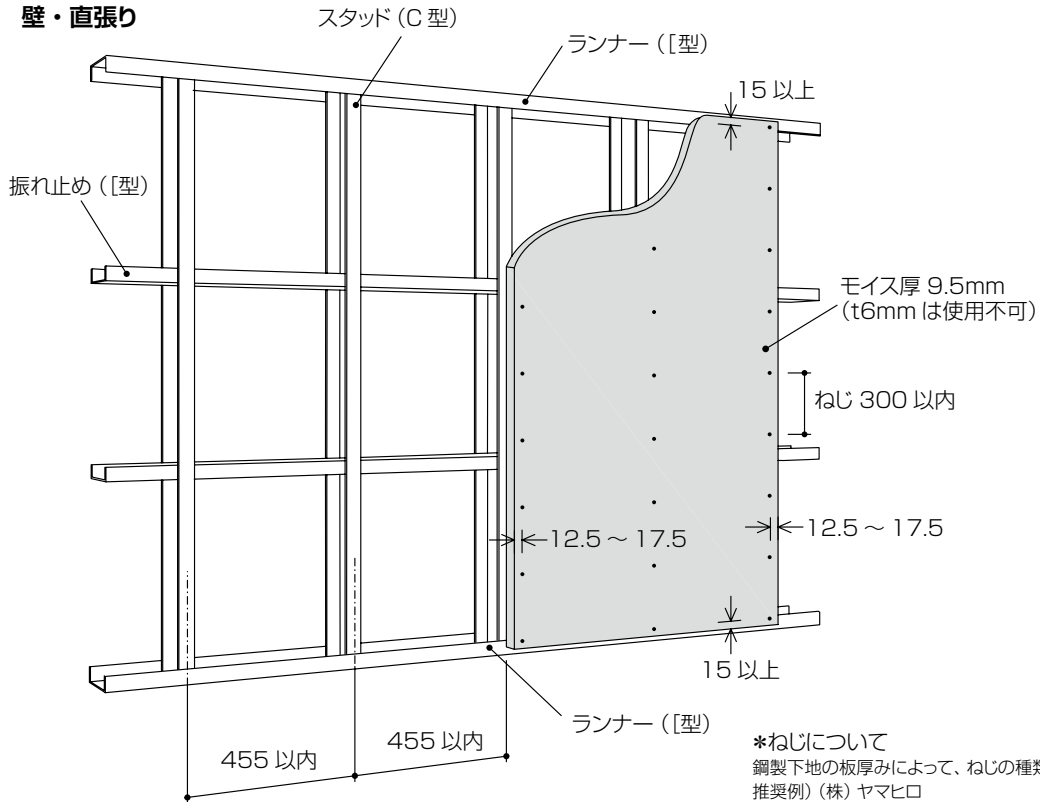
●お願い

- ・両面テープの張付け面及び接着剤の塗布面のゴミ、埃 (ほこり) は除去してください。
- ・改修の場合、既存ビニールクロス等を除去したうえで施工してください。
- ・脱落防止のために、ねじなどの併用をお勧めします。
- ※天井施工は、荷重を軽減するため、t6mm 限定 (t9.5mm は使用不可) とし、かつ、1枚のサイズも3'x6' / 枚以下としてください。

②軽量鉄骨・鋼製 (LGS) 下地

(単位 : mm)

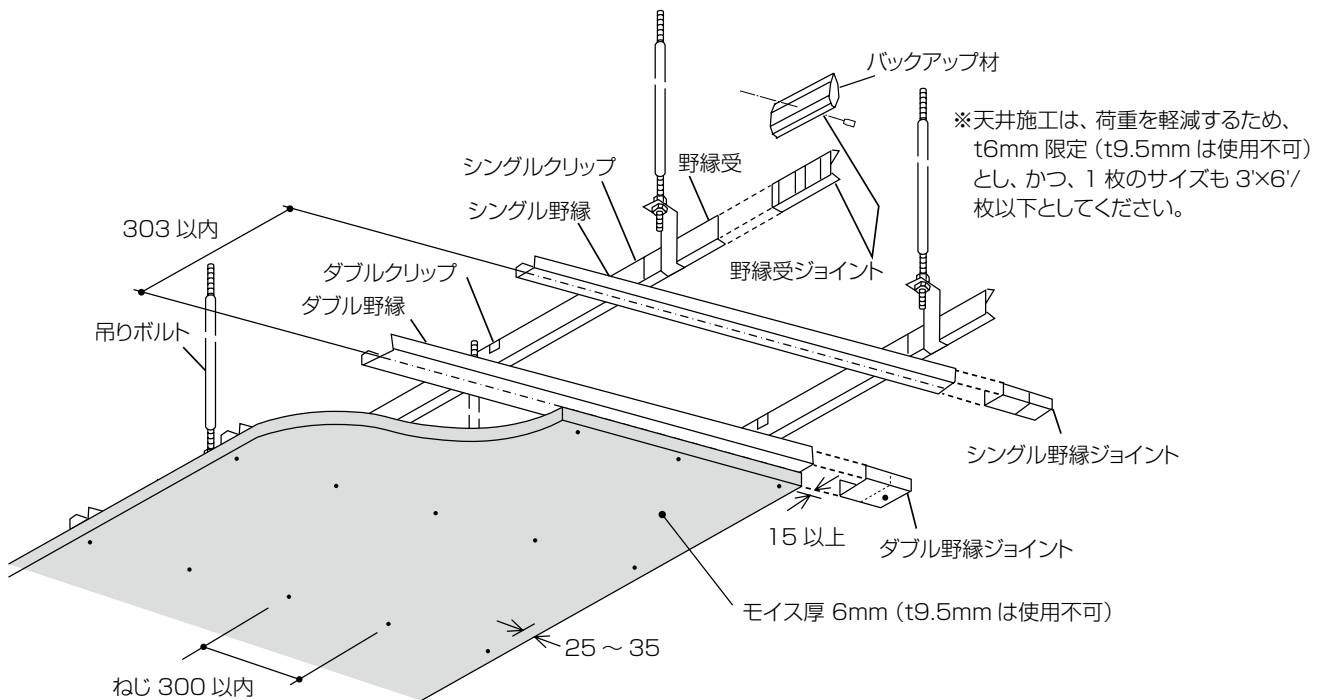
図3 壁・直張り



*ねじについて
鋼製下地の板厚みによって、ねじの種類を使い別けてください。
推奨例) (株) ヤマヒロ

商品名	品番	仕様	板厚み(mm)
ジャックポイント リーマーフレキねじ	BW28 BW32	φ7.5x4x28 φ7.5x4x32	t2.3
ジャックポイント フレキねじ	FSJ25 FSJ30 FSJ35	φ7.0x3.8x25 φ7.0x3.8x30 φ7.0x3.8x35	t1.6
ドライウォール スクリューフレキねじ	FS25 FS32	φ7.0x3.5x25 φ7.0x3.5x32	t0.8

図4 天井・直張り



※天井施工は、荷重を軽減するため、
t6mm 限定 (t9.5mm は使用不可)
とし、かつ、1枚のサイズも3'x6'/
枚以下としてください。

◆ボード下地に張付施工(接着工法)に際して

木ねじ、スーパーフィニッシュネイル等を使用せず、ボード下地に張付施工する場合は、図5、図6の内容の他、P.9以降の内容も、よくお読み頂き、施工してください。

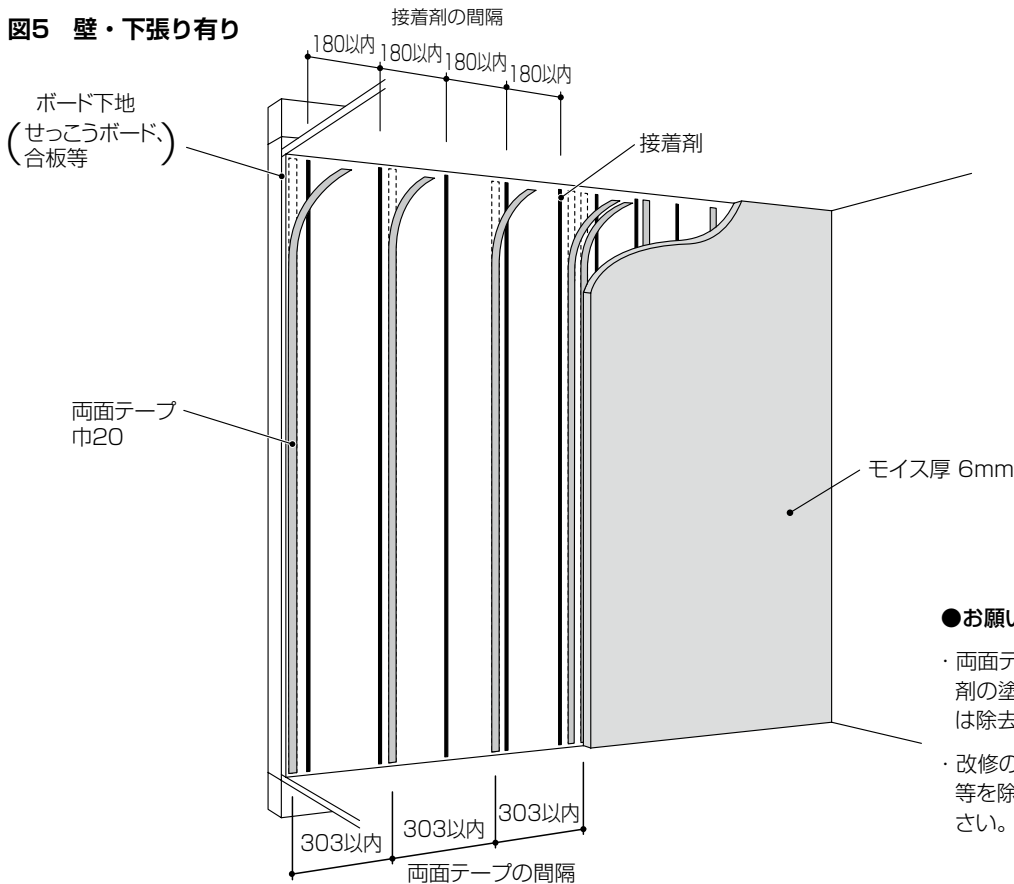
特に、天井面へのご使用やモイス自体へ荷重負荷がかかる場合、及び、吹き抜け等で高さ3mを超える場合の壁面へのご使用の場合は、下地面(せっこうボードを除く合板、ケイカル板等の下地の場合)、かつ、モイス裏面側に専用プライマーを塗布してから、施工してください。

※モイス裏面側にプライマー塗布した場合、「調湿建材」対象外となります。

③ボード下地

(単位：mm)

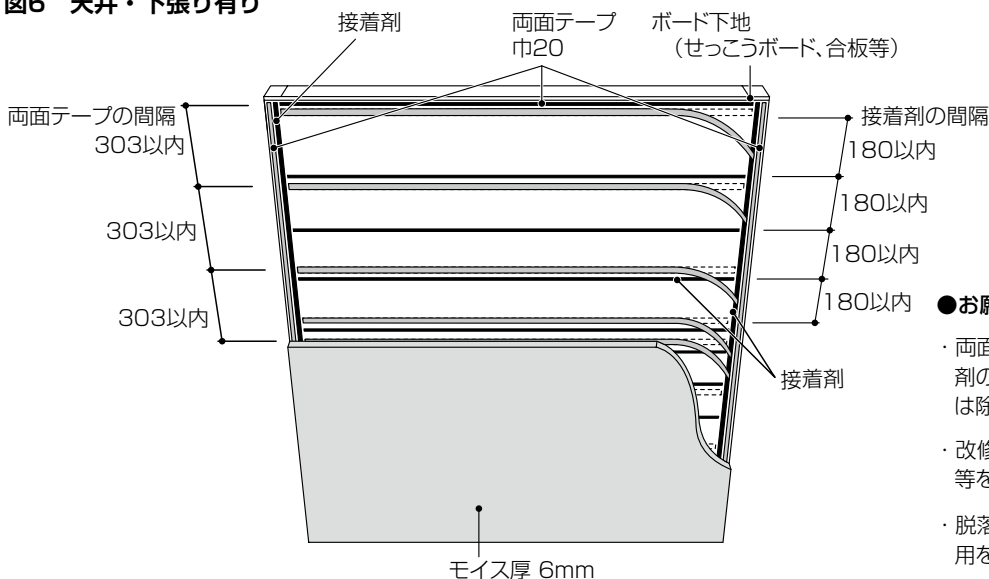
図5 壁・下張り有り



●お願い

- ・両面テープの張付け面及び接着剤の塗布面のゴミ、埃（ほこり）は除去してください。
- ・改修の場合、既存ビニールクロス等を除去したうえで施工してください。

図6 天井・下張り有り



●お願い

- ・両面テープの張付け面及び接着剤の塗布面のゴミ、埃（ほこり）は除去してください。
- ・改修の場合、既存ビニールクロス等を除去したうえで施工してください。
- ・脱落防止のために、ねじなどの併用をお勧めします。

- ・天井部は、下地面、かつ、モイス裏面側に専用プライマーを塗布してから、施工してください。
- ・プライマー、接着剤、両面テープについては、P.5を参照ください。
- ・合板ベニヤ等の木質系ボードの場合は、スーパーフィニッシュネイルでの留め付けが可能です。

※天井施工は、荷重を軽減するため、t6mm 限定（t9.5mm は使用不可）とし、かつ、1枚のサイズも3×6' 枚以下としてください。

ボード下地に張付施工(接着工法)の施工方法

1 割付け・プライマー下地処理

下記の注意事項を遵守して割付け・下地処理を行ってください。

割付け時の 注意点

- 下地材の目地とモイスNT内装材の目地が重ならないように、割付けてください。

下地材が、合板、ケイカル板等の場合

モイスを張付ける部分の全面に、予め、プライマー(JW-900NまたはRA-900)を塗布してください。
 また、モイスを天井面へ張る場合やモイス自体へ荷重負荷がかかる場合、及び、吹き抜け等で高さ3mを超える場合の壁面へのご使用の場合は、下地面(合板・ケイカル板等)、かつ、モイス裏面側にもプライマーを塗布してください。
 ※モイス裏面側にプライマー塗布した場合、「調湿建材」対象外となります。

プライマー塗布面	施工部位	壁		天井	
	下地材種類	せっこうボード	合板、ケイカル板等	せっこうボード	合板、ケイカル板等
	モイス裏面側	不要		○プライマー塗布	
	下地材側	不要	○プライマー塗布	不要	○プライマー塗布

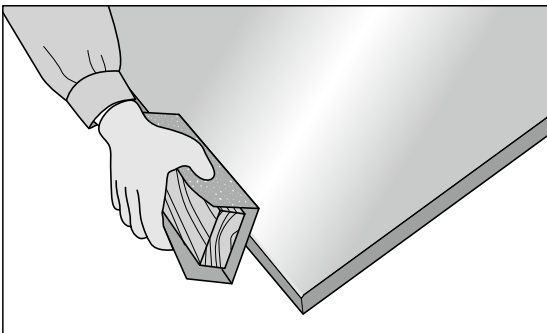
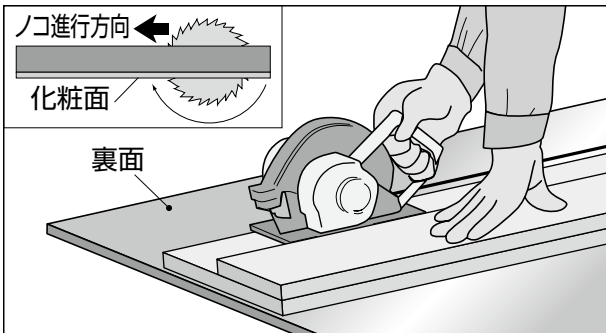
- 標準施工量:JW-900N
 - ・せっこうボード下地の場合(モイス裏面側のみ塗布): 6~8枚(3×8サイズ)/1kg缶
 - ・合板、ケイカル板下地等の場合(下地材側+モイス裏面側塗布): 3~4枚(3×8サイズ)/1kg缶
- 標準施工量:RA-900
 - ・せっこうボード下地の場合(モイス裏面側のみ塗布): 18~20枚(3×8サイズ)/2kgポリ容器
 - ・合板、ケイカル板下地等の場合(下地側+モイス裏面側塗布): 9~10枚(3×8サイズ)/2kgポリ容器

ご注意

- プライマー(アイカ アイボン JW-900N、RA-900)は薄めずに、そのままご使用ください。
- プライマー(アイカ アイボン JW-900N:溶剤系)塗布後、**4時間以上7日以内**にモイスを貼付けてください。
 JW-900Nはトルエン・キシレンを含んでおりませんが、ご使用の際には十分に換気を行ってください。
- プライマー(アイカ アイボン RA-900:水系)は、冬期24時間、春秋期12時間、夏期6時間以上を目安に乾燥させてから7日以内にモイスを貼付けてください。環境により乾燥状況が異なりますので、必ず乾いた事を確認してから、次の工程へ進んでください。
 ※ 5℃以上でご使用ください。

2 モイスNTのカット・加工 (接着工法 以外も共通)

下記の注意事項を遵守してカットしてください。



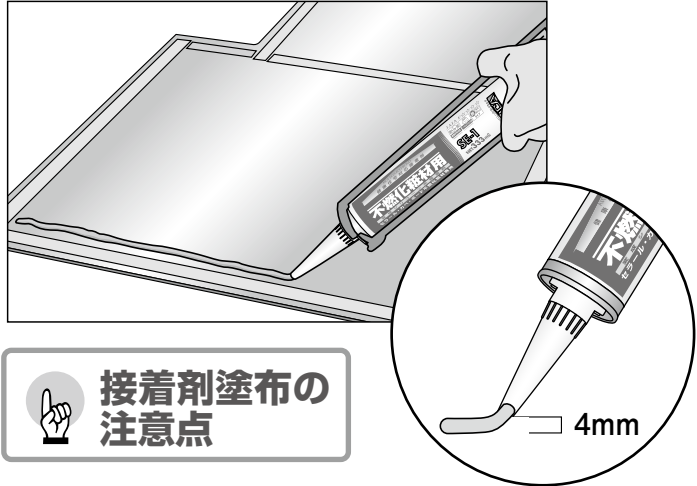
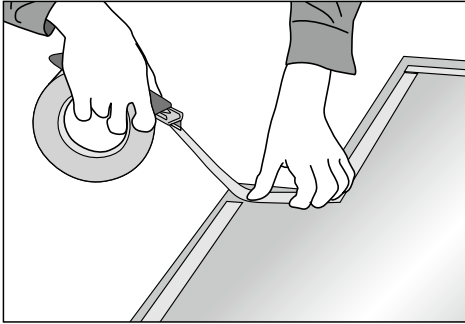
カットする時の 注意点

- 切断は当木を用いて、必ず刃物を**裏面**から入れてください。
- 割れやすいため、取り扱いには充分ご注意ください。
- 表面は、マスキングフィルムで保護しておりません。キズ・打跡には充分ご注意ください。

- ### 面取り方法
- カット面はサンドペーパーを当木にそえて軽く糸面取りしてください。
 - 目透かし納めの場合、カットしていない面も軽く糸面取りしてください。

3 仮留めテープ貼付・接着剤塗布

下記の注意事項を遵守して、仮留めテープ貼付・接着剤塗布を行ってください。



テープ貼付の 注意点

- 貼付けたテープをよく押えて、しっかりと圧着してください。
- 一度はがれた両面テープは再使用せず、必ず新しい両面テープを使用してください。

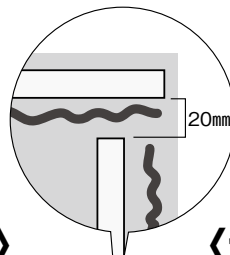
接着剤塗布の 注意点

- 接着剤は高さ4mmで塗布してください。
- モイス3尺×8尺(壁面)1枚に対して、専用接着剤(GS-330)を0.5本が目安の塗布量です。塗布量が少ない場合、剥がれなどの原因となります。
- 接着剤塗布後10分以内に貼付け圧着してください。

〈専用接着剤使用時のご注意〉

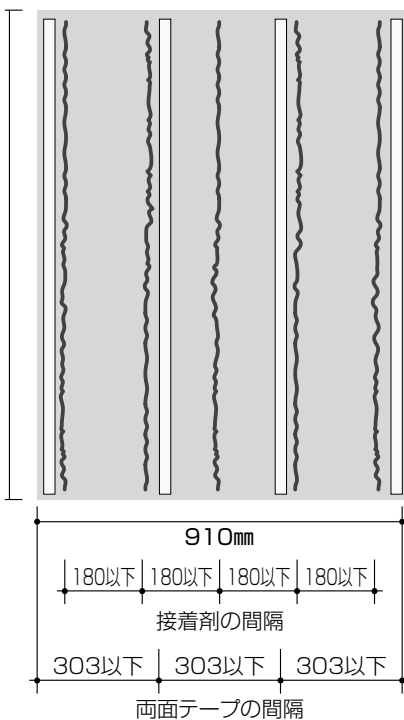
気温が5℃以下の場合には**施工できません**。

【標準塗布パターン】

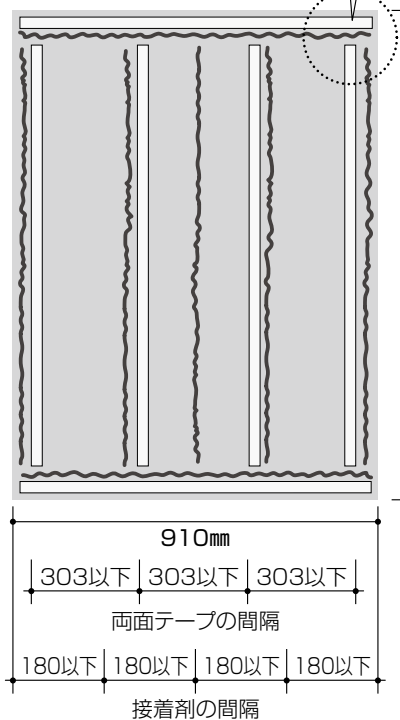


天井施工の場合は図の箇所の仮留めテープは20mmを開けて施工してください。

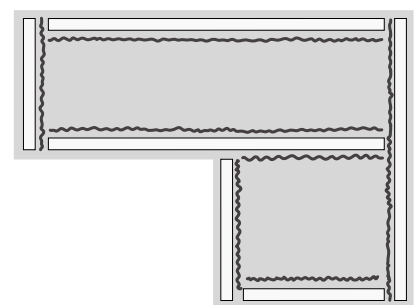
〈壁面施工〉



〈天井面施工〉



〈切り欠き〉

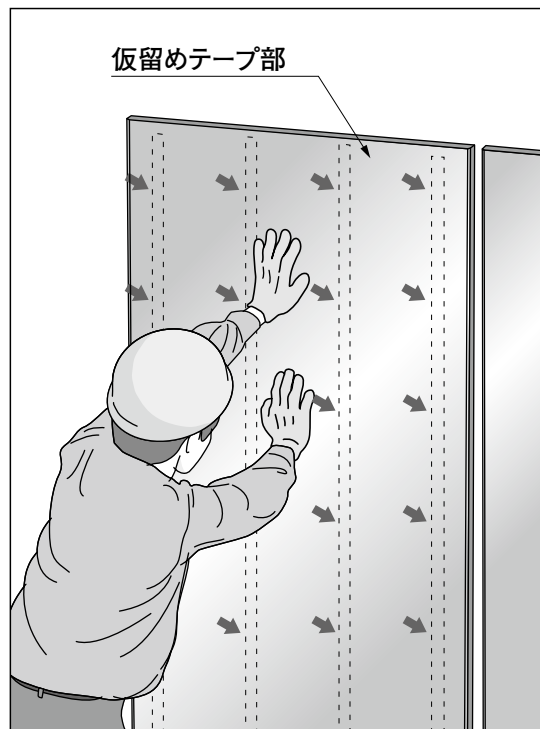


- 天井施工の際は、接着剤の塗布量を遵守し、圧縮を十分に行ってください。
- 天井施工の際はアルミハット型ジョイナーの併用をおすすめします。
- 天井施工は、荷重を軽減するため、t6mm(t9.5mmは使用不可)とし、かつ、1枚のサイズも3×6以下としてください。
- 天井施工は、脱落防止のために、ねじなどの併用固定をおすすめします。

・壁面と天井面とでは、両面テープと接着剤の位置が異なります。

4 貼付・圧着

下記の注意事項を遵守して貼付・圧着を行ってください。



貼付時の 注意点

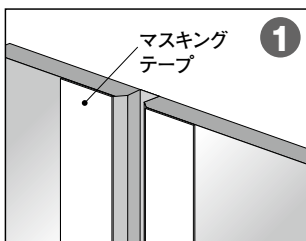
- モイスを貼付ける際に、中央部に**浮き**が発生しないように注意してください。
- ※仮留めテープが壁面に一度接着すると、調整ができなくなります。

圧着する時の 注意点

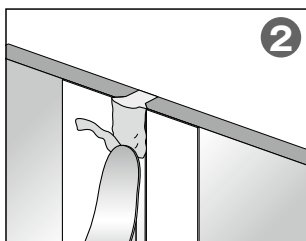
- 仮留めテープ部**をしっかりと押さえてください。
- ※接着剤部を押さえると泣き別れの恐れがありますのでご注意ください。

5 シーリング

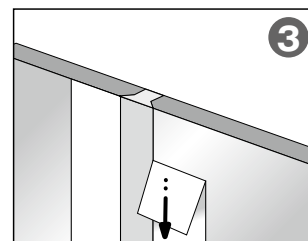
下記の手順に従ってシーリングを行ってください。(シリコーン納まりの場合)



1 マスキングテープを貼り付け、奥までしっかりとシリコーンを注入する。



2 ヘラなどを用いて、余分なシリコーンをかき取る。



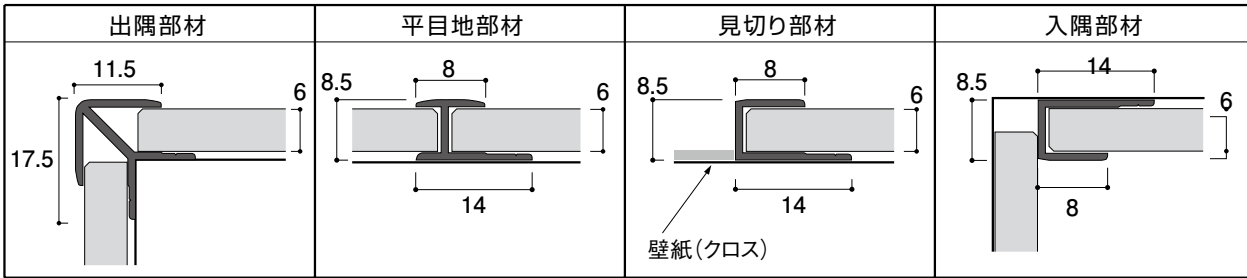
3 マスキングテープを矢印の方向にゆっくりと剥がす。

図7 各種 納まり例

モイスNT内装材 t6mmに対応するジョイナー、底目地テープ(アイカフレキ)は、アイカ工業製をお使いください。
 詳しくは、アイカ「壁・補助部材カタログ(カタログNo.M781)」をご覧ください。
 尚、モイスNT内装材 t9.5mmに対応するジョイナーの弊社設定品はありません。
 ■モイスNT内装材 推奨 アルミジョイナー 色:ミルクグレー(色番:13)
 推奨 シリコン 色:アイスホワイト(色番:7)

①ジョイナー納まり

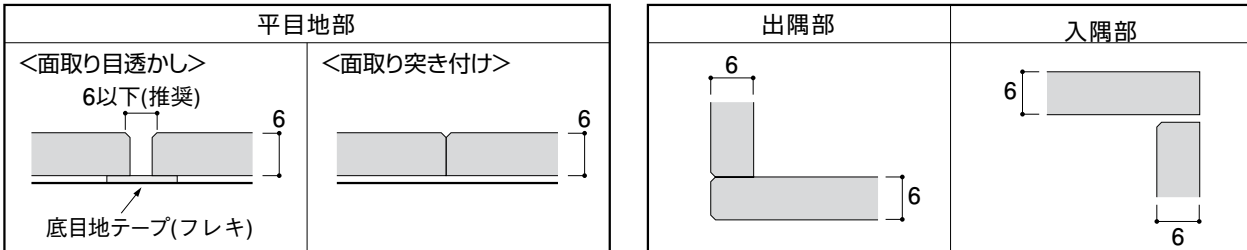
(単位: mm)



ご注意

- ジョイナー納まりの場合は、モイスに差し込んでから施工してください。
- 水廻り部位に施工する場合、必ず**ジョイナーの中にシリコンを注入**して施工してください。

②目透かし・突き付け納まり

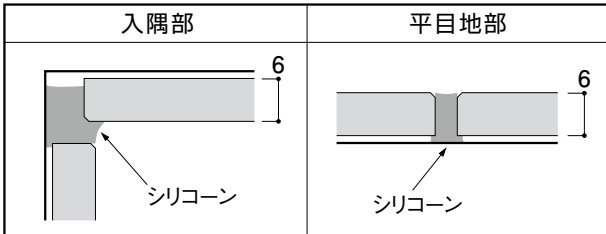


<面取り突き付け>

ご注意

- 突き付け納まりの場合は、下地精度の影響を受けやすい為、ご注意ください。
納まり精度を求められる場合には、おすすめいたしません。
- 面取り寸法はC2mm以下としてください。

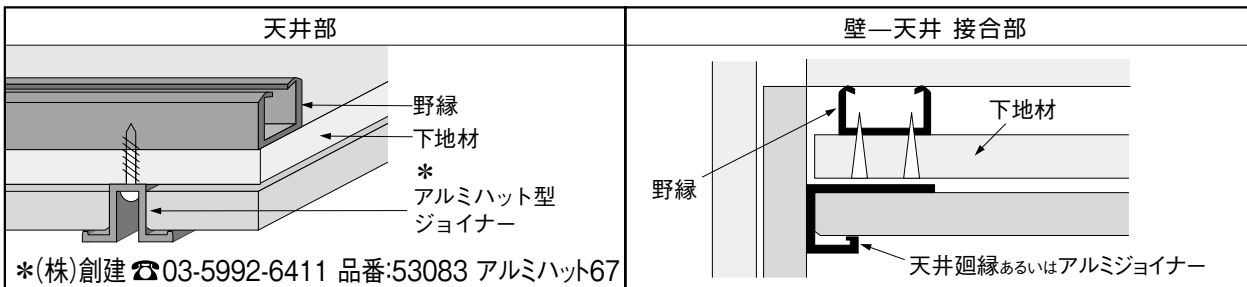
③シーリング納まり



ご注意

- サニタリー等、水廻りに施工する場合、シリコン納めをおすすめします。

④天井納まり〔天井施工の場合は、建築基準法等の法規制を遵守してください。〕



ご注意

天井への化粧材の施工の際は、脱落のリスクを軽減するため下記の注意事項を守ってください。

- 天井施工の際は、接着剤の塗布量を遵守し、圧縮を十分に行ってください。
- 天井施工の際はアルミハット型ジョイナーの併用をおすすめします。
- 天井施工は、荷重を軽減するため、t6mm(t9.5mmは使用不可)とし、かつ、1枚のサイズも3×6以下としてください。
- 天井施工は、脱落防止のために、ねじなどの併用固定をおすすめします。

2 施工方法

[1]下地施工

無接着剤工法*は下地の種類が木製下地又は鋼製(LGS)下地となります。ただし、改装工事などでせっこうボードが下地の場合には両面テープおよび接着剤等を併用してください。(P.5参照)

*無接着剤工法とは、モイスの持つ高い引抜き耐力により、接着剤を一切使用しないで、ピンネイル、スーパーフィニッシュ、ケーシングくぎなどのみで仕上げる乾式工法です。それぞれのくぎの保持力についてはP.15の保持力試験結果を参照願います。

[2]モイス留め付け

○木製下地の場合

モイスは木製下地に対し、ピンネイル、スーパーフィニッシュのみで留め付けそのまま仕上げます。

○鋼製(LGS)下地の場合

モイスは鋼製下地に対し、ジャックポイントねじ、専用ねじ(エコファスナーライト)で留め付けます。(P.5、P.7参照)ねじ頭部分はモイス面位置になるように施工します。

[3]施工準備

1.モイスの取り扱い

モイスは、仕上げ材のため施工中の取扱いは慎重にしてください。大きな傷、汚れ等については、交換が必要となります。また、吸水性が高いため、内部まで浸透してしまった染みについても交換が必要です。なお、手垢等の汚れがついた場合には、P.18の「お手入れのしかた」に従って処置してください。

2.下地施工

モイスは、下地と一体となって構成されるため、下地の不具合がそのまま表面の平滑性に現れます。したがって下地は、縦横の通り、不陸、水平・垂直等不具合のないように精度よく施工してください。

また、床面と壁面、壁面と天井面との取合い部分は精度よくすき間のないように施工してください。

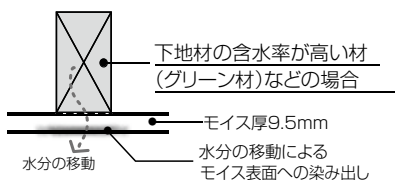
木製下地は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。濡れた木材を使用するとモイスがその水分を吸収して、「染み」になる恐れがあります。

下地の間隔は、モイスの施工要領図(P.5-12)に従い施工してください。

◎「壁・天井」施工上の注意

【事故例】

モイスの高い吸水性により、下地材の水分が染み出して変色した例。



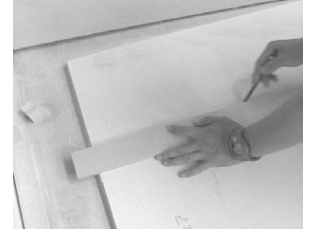
3.墨出し、板割り付け

施工図に従いモイスの割付墨を下地に打ちます。モイスの目地は必ず下地の上にくるようにします。

モイス表面は仕上げとなりますので、表面には文字(メモ)などを絶対に書かないでください。



現場での下地配置状況



モイスの加工

[4]工具の準備

1.切断工具

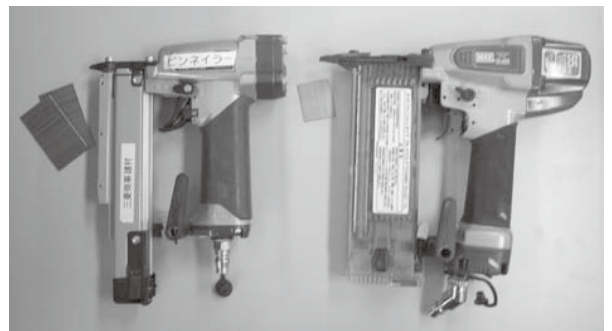
集じん機付電動丸鋸(チップソー)
ボードカッター
ハクソー
スレート鋸
カッター

2.穴開け工具

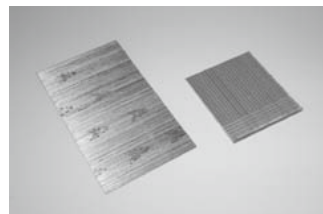
電動ドリル、ハンドドリル
ジグソー

3.留め付け工具

電動ドリル(スクレュードライバー)ボード用
ピンネイラー、スーパーフィニッシュネイラー
プラスビット 金槌



推奨釘打機:
(左)ピンネイラー
(右)フィニッシュネイラー



推奨釘:
(左)ピンネイル
(右)スーパーフィニッシュ

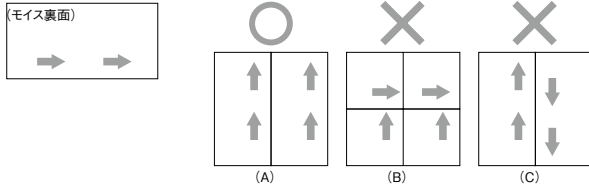
4.面取り工具

面取りカンナ
ヤスリ
サンドペーパー(#60~#150)
角材(サンドペーパー巻きつけ用)

[5] モイスの加工

1. 切断

モイスには製造方法上、方向性があり、モイス裏面には矢印が印刷され、方向性を示しています。矢印の向きをそろえて切断し、施工してください。向きが異なった場合、表面の見え方に差が出る場合があります。



*注意事項

モイスを切断する場合には必ず保護メガネ・防じんマスクを使用し、手袋・長袖の作業着を着用し、皮膚が露出しないようにしてください。また、機械切断ではなく手折り切断を行う場合には、板の表裏面に定規をあてカッターを用いて数回切り込みを入れながら切断してください。

切断作業後は、うがい及び手洗いを励行してください。粉じんが大量に体内に入ると、人体へ悪影響を及ぼすおそれがあります。

2. 面取り

現場切断の後、面取り加工を行う場合は、面取りカンナを使用してください。

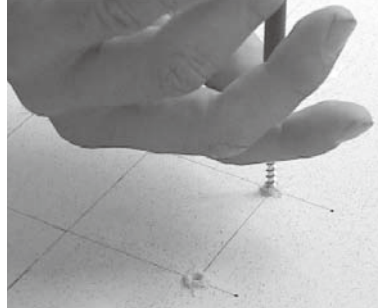


※不燃材として使用する場合は、4mm以上の板厚を確保してください。

現場での面取り作業

3. 欠きこみ

欠きこみは、モイス表面に傷や汚れをつけないように養生し、欠きこみの角部に穴を開け、ジグソーまたは、電動チップ付丸鋸等で切断してください。



欠きこみ作業(穴あけ)

4. 小口仕上げ

切断面をバリ等の無いようサンドペーパー(#60~#150)を角材に巻き、軽くサンディングしてください。

5. 彫刻加工

現場にてルーターを使用して加工を行う場合、「1. 切断」と同様に、専用の集じん機を取り付け、防護メガネ、防じんマスク等を着用して作業してください。

ルーターの刃先は形状にあったものを選定し、超鋼チップ付などのものを使用してください。なお、ルーターでの加工深さはモイス9.5mm厚で4.0mm程度、6mm厚で2.0mm未満としてください。

モイスに使用するくぎの保持力試験(社内試験による)

1. ピンネイル、スーパー フィニッシュの保持力試験 (木製下地)

表-1 使用くぎ (単位:mm)

品番	品名	サイズ
P-25	ピンネイル	長さ: 25, 30, 35 径: 0.6φ
SF-25	スーパーフィニッシュ	長さ: 25, 30, 35 径: 1.05φ 頭径: 1.4 × 1.3
形状図	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>ピンネイル</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>スーパーフィニッシュ</p> </div> </div>	

表-2 引き抜き耐力(試験体は n = 5 平均値)

モイス厚さ t (mm)	ピンネイル(P-25)		スーパーフィニッシュ(SF-25)	
	N	kgf	N	kgf
9.5	131	13.4	178	18.2
6	46	4.7	77	7.8

表-3 ピンネイル最少打設時の総耐力結果 (単位:kgf)

板厚-板寸法 (mm)	重量 kgf/ 枚①	最少本数 / 枚	引抜き保持力②	② / ①
t6 × 910 × 1,820	10.7	30	141	13
t6 × 910 × 2,420	14.3	42	197	14
t9.5 × 910 × 1,820	17.0	30	402	24
t9.5 × 910 × 2,420	22.6	42	563	25

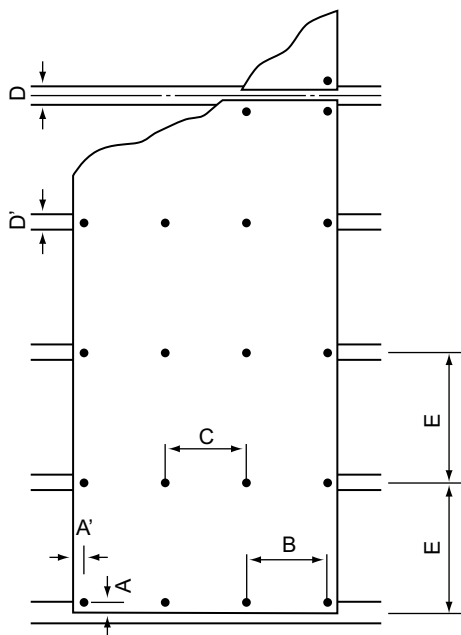
※上記結果は、測定値であり、保証値ではありません。

2 試験結果

表-3の結果から、モイス1枚当たりの引き抜き保持力②とモイス重量①の比率はt6×910×1820の場合、ピンネイル使用で約13倍の引抜き保持力を持つと考えられます。

表-4 取り付け下地と留め付け具の間隔 (単位:mm)

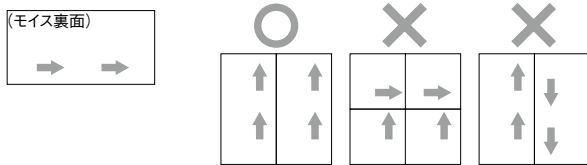
留め付け金具	留め付け間隔				下地間隔		
	A	A'	B	C	D	D'	E
1.スーパーフィニッシュ	5-10	5-10	200以下	200以下	90以上	45以上	455以下
2.ピンネイル							
3.ドリル先ラッパ頭ねじ	15以上	12.5-17.5	200以下	300以下	50以上	—	455以下
備考	記号は下図(JASS26 内装工事)に対応						



4. その他・注意事項

1 モイスの方向性について

モイスは、抄造方法（和紙漉き要領）により成形し、最終工程で研磨による表面仕上げを施しています。したがって、製造方法上、方向性があります。方向を統一しないで施工すると仕上がり状態が異なり、意匠的に不具合を起こす場合があります。施工時には裏面に記された矢印を考慮して施工してください。



2 曲面施工について

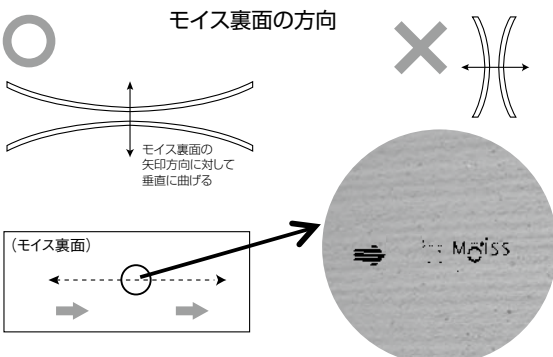
モイスは、曲面施工ができます。ただし製造方法上方向性があるので、モイスの方向を確認し曲げ加工を行ってください。（下図参照）

施工する大きさに加工したモイスを20～30分間水に浸し、少しずつ力を与えながら、曲面に沿って曲げていきます。ここで過度に力を加えると破断してしまいますので注意してください。なお、下地の精度がそのまま仕上げに現れますので、下地の精度を十分に確保してください。



円形柱への施工（下地施工）

モイスの施工



曲面施工の限界曲率

（製品管理番号等の印字）

厚さ (mm)	曲げ半径 (mm)	備 考
	ウェット	
6	500 以上	・ウェットの場合、所要時間の水浸し後、少しずつクセを付 けながら繊維方向に垂直に曲げてください。
	9.5	

3 手すり等の取り付けについて

モイスを使用した壁に手すり、エアコン、フック等負荷がかかるものを取り付ける場合は、必ず下地材を取り付けるか、柱の部分に取り付けるようにしてください。

下地材は、厚さ12mm以上の合板または、35×105mm以上の受け材を推奨します。

4 補修について

[1] 施工中の傷、汚れについて

大きな傷については、交換が基本となります。内部まで浸透してしまった染みについても同様です。施工中は、仕上げ材として慎重に作業してください。また、表面の養生についても必要に応じて行ってください。

[2] 専用パテについて

小さなキズやすき間は、モイス専用パテで補修が可能です。大きな欠けや損傷には適していません。また、パテ材は紫外線などに対して変色するおそれがあります。

5 他材料による表面仕上げについて

モイスは、素地仕上げを標準としますが、クロス、壁紙、塗り壁等の仕上もできます。

※モイス NT へ表面仕上げを行った場合には、「調湿建材」対象外となります。

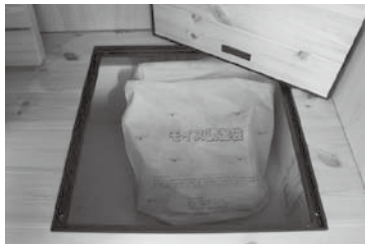
6 現場で発生したモイス廃材について

モイスを廃棄する場合は、「ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず」に該当し安定型産業廃棄物として処分できます。

またモイスの主成分は、天然素材で構成され、製造過程でも接着剤などの化学物質は使用しておりません。現場で発生した端材は、調湿袋に詰めて床下に設置することにより、湿気や臭い取りとして有効に活用できます。

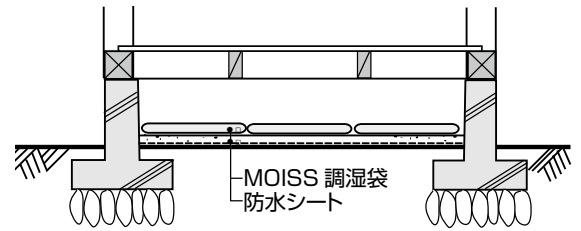


床下・モデル施工試験体



床下への調湿袋の設置の様子

※モイス以外は、調湿袋に入れないでください。



MOISS調湿袋・設置要領

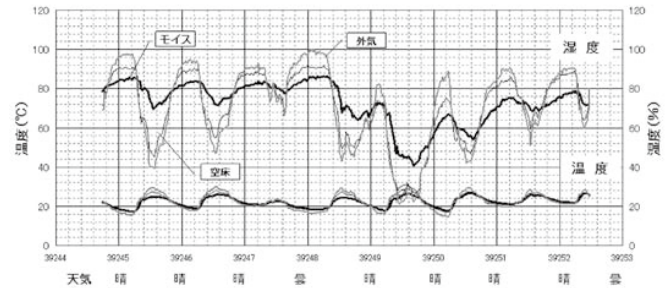
住宅床下への設置イメージ図

現場端材を有効活用する「モイス調湿袋」

モデル施工における調湿効果について

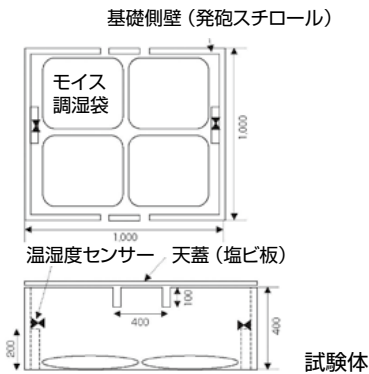
以下に示すのはモイス調湿袋の効果を実験的に確かめたものです。右のグラフが示すように床下の湿度は外気温の下がる夜間に高くなり、逆に気温の高くなる日中に低くなる傾向があります。モイスは湿度が高くなる夜間には吸湿し、日中や晴れた日の湿度が低くなった時には放出して床下の湿度を均一しようとする調湿効果が確認されています。

調湿袋の温湿度の推移グラフ



○解説：太いラインがモイスの効果を示す。湿度分布では、湿度を均一化する方向に働き、空床と比べ最高湿度では5%、最低湿度では18%の差が生じた。

※上記結果は、測定値であり、保証値ではありません。

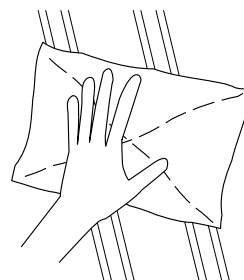


お手入れのしかた

モイスの性能を長く保持していただくために以下の内容に心がけてメンテナンスをお願いします。

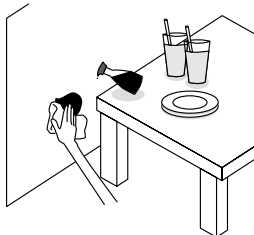
日常のお手入れ

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布で、からぶきしてください。
- モイス表面に付着した汚れをそのままにしておくと、内部に染みこみ落ちにくくなるため、日常のお手入れを定期的に行うことをお勧めします。
- 埃やゴミは、乾いたきれいな布で払い落としてください。
- ひどい汚れ、または落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めて固く絞った布で拭き取ってください。酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー、ベンジン）などは、絶対に使用しないでください。
- モイスは、絶対に水洗いはしないでください。下地材の水分が染み出して変色する恐れがあります。



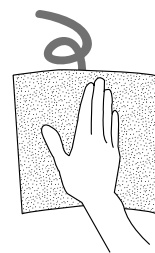
ジュースや調味料

汚れが染みこむ前に、水を含ませたきれいな布、またはティッシュペーパーなどでできる限り早く拭き取ってください。汚れが気になる場合には、中性洗剤を用いた水につけ絞ってから汚れた部分を拭いた後、清水で固く絞ったきれいな布で表面に残った洗剤分を拭き取ってください。



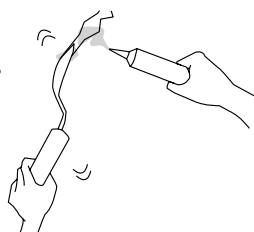
油性マジックやボールペン

水拭きしても落ちない汚れは、サンドペーパー（#60～#150）を用いて、研磨目に沿って見映え良く研磨してください。なお、研磨粉の除去はきれいな乾いた布を使用してください。



小さな傷

小さな傷は、モイス NT パテ（p.3）でタッチアップしてください。



ご注意

- 汚れが付いたらすぐに落としてください。
- 汚れた布や雑巾などはかえって汚れをひどくしますので使用しないでください。
- 洗剤を使用する場合は、終了後良く水拭きしてください。洗剤が表面に残留するとだいに色調や質感が変化するおそれがあります。
- 酸性・アルカリ性の洗剤、塩素系漂白剤、シンナー、金属タワシは使用しないでください。
- モイス表面に、製造（研磨）時に出る粉が付着していることがあります。

- 改良のため、予告なく仕様及び価格を変更することがありますのでご了承ください。確認は最寄りの当社までお願いいたします。
- 荷受けの際、必ず破損の有無をご確認ください。万一破損している場合は、運送会社の証明をもらい、至急当社へご連絡ください。また、ご使用前に製品に異常がないかも確認してください。(後日に発見された場合は、責を負いかねます。)
- このカタログに掲載されている設計価格は消費税抜きとなります。● 印刷物につき、商品写真と実物とは多少相違することがあります。
- 商品ならびに施工に関するお問い合わせは最寄りの当社へお願いいたします。● 製品は内装専用です。
- 直射日光が常に当たる部位に製品を使用すると、通常の屋内使用よりも早く経年変化(変色・退色)する可能性があります。
- ©アिका工業株式会社 本書に収録したものの一部または全部の無断複製・転載を禁じます。
- 本カタログは、三菱商事建材株式会社と旧三菱マテリアル建材株式会社が共同制作したカタログを両社の承諾および協力を得て制作しております。なお、旧三菱マテリアル建材は2015年10月1日付でアिकाテック建材という会社を新設し、当社が旧三菱マテリアル建材からアिकाテック建材の全株式を譲り受け、アिकाグループとして旧三菱マテリアル建材の主たる事業を承継しております。



ISO 9001 認証取得 JQA-2019
ISO 14001 認証取得 JQA-EM0513
OHSAS18001 適合 JQA-OH0017

業務用

○販売元

アिका工業株式会社

化成品・化粧板・住器建材・機能材料

本社 / 愛知県清須市西堀江2288番地
東京本社 / 東京都練馬区豊玉北6丁目5番15号
建築・建材カンパニー
ホームページアドレス / <http://www.aica.co.jp/>
○製造元 **アिकाテック建材株式会社**

● お問い合わせは、最寄りの当社へお願いします。

札幌 ☎ (011) 811-9201	FAX (011) 812-2968	新潟 ☎ (025) 245-8596	FAX (025) 245-8597	四国 ☎ (087) 851-9588	FAX (087) 851-9592
仙台 ☎ (022) 232-3251	FAX (022) 235-1067	松本 ☎ (0263) 33-1321	FAX (0263) 33-1325	福岡 ☎ (092) 474-1190	FAX (092) 474-1282
盛岡 ☎ (019) 653-5591	FAX (019) 653-5419	名古屋 ☎ (052) 757-1052	FAX (052) 757-1058	鹿児島 ☎ (099) 226-7511	FAX (099) 226-7515
福島 ☎ (0248) 62-1420	FAX (0248) 62-1422	静岡 ☎ (054) 286-0451	FAX (054) 286-0453	沖縄 ☎ (098) 868-6367	FAX (098) 868-6372
東京 ☎ (03) 5912-2831	FAX (03) 5912-2837	金沢 ☎ (076) 222-9600	FAX (076) 222-9608	東京ショールーム ☎ (03) 6770-2012	
埼玉 ☎ (048) 601-2191	FAX (048) 601-2190	大阪 ☎ (06) 6265-6843	FAX (06) 6265-6844	名古屋ショールーム ☎ (052) 757-1056	
横浜 ☎ (045) 640-1081	FAX (045) 640-1087	神戸 ☎ (078) 222-6341	FAX (078) 222-6326	大阪ショールーム ☎ (06) 6265-6828	
千葉 ☎ (043) 241-2181	FAX (043) 241-2185	京都 ☎ (075) 284-0770	FAX (075) 284-0771	福岡ショールーム ☎ (092) 474-1164	
宇都宮 ☎ (028) 346-1750	FAX (028) 346-1752	広島 ☎ (082) 254-1311	FAX (082) 255-8817		
北関東 ☎ (027) 322-8771	FAX (027) 327-2271	岡山 ☎ (086) 243-1327	FAX (086) 243-7508		

■代理店

三菱商事建材

モイスホームページアドレス

<https://moiss.jp/>



本社東京 TEL: 03-5360-7233 FAX: 03-5360-7293
北海道支店 TEL: 011-212-3595 FAX: 011-212-3555
東北支店 TEL: 022-264-5521 FAX: 022-264-5535
中部支店 TEL: 052-856-4407 FAX: 052-856-4430
関西支店 TEL: 06-6348-6052 FAX: 06-6348-7861
九州支店 TEL: 092-721-2670 FAX: 092-721-2698

カタログ、サンプル帳、現物サンプルの
ご請求はホームページまたはFAXにて

● 商品のお問い合わせ先

ホームページ: www.aica.co.jp

FAX (052) 409-1526

アिकाカタログセンター
TEL (052) 409-1471

アिका問合せセンター

☎ (0120) 525-100 TEL (052) 409-8313 FAX (052) 409-1482

*フリーダイヤルは、携帯電話・PHS、一部のIP電話等からはご利用になれない場合がございます。

※問合せセンター・カタログセンターを含む全営業店所の営業日は、月～金(除く:土日祝休)です。ホームページからの当日出荷ご依頼分の受付時間は14:00(FAXの場合は12:00)です。

G521C 17.04.4S.TA